

中学生の「税についての作文」「税の標語」入賞者発表



次代を担う中学生に税への関心と理解を深めてもらうことを目的としているコンクール・募集で、市内の中学生が入賞しました(敬称略)
☎教育総務課 ☎042-574-4040

「税についての作文」入賞者

- 👑国分寺市長賞 坂本健太郎(三中)
- 👑国分寺市教育委員会教育長賞 碓楓(二中)
- 👑立川都税事務所長賞 山田優羽(一中)
- 👑多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞 西尾康佑(二中)
- 👑多摩納税貯蓄組合連合会 入賞 泉花恋(四中)
- 小川陽菜(五中)

「税の標語」入賞者

- 👑国分寺市長賞 原田和果(三中)
- 👑立川税務署署長賞 島田真緒(二中)
- 👑立川間税会会長賞 鈴木朋佳(五中)
- 👑全国間税会総連合会 入賞 高橋ひなた(一中)
- 👑東京国税局間税会連合会 入賞 飯塚奏太(四中)
- 👑立川間税会 佳作 菊池優(五中)



国分寺市長賞受賞標語

幸せな暮らしへ一歩 税と知る

原田和果(三中)

国分寺市長賞受賞作文

教科書の裏のメッセージ
 三 中 坂本健太郎
 「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」
 小学校に入学して初めて教科書が配られた時、裏表紙にこの一文が書かれているのを見つけてとても印象に残ったのを今でも覚えている。その後も、教科書が配られる度に何気なくその一文が印刷されているかを確認していた。小学一年生から中学三年生までの間に配られた全ての教科書に、この一文が書かれていた。今まではそこまで深く考えてこなかったが、税について考える良い機会なので教科書に使われている税金について調べてみた。

まず僕は、どのくらいの税金が教育に使われているのかを調べてみることにした。国全体で教育のために充てられている税金は一年で五兆円を超えている。そのうち、教科書の無償支給などのために使われている費用が約四割を占め、金額にすると約二兆三千億円にもなる。しかしその他にも、教職員の給料や、学校の設備など様々なところにもお金がかかる。これらを総合すると、一年間で中学生一人当たりに使われる教育費用は、約百万円にもなるらしい。あくまでこれは一人当たりの数字だから、全国約三百万人いる中学生、そして、小学生や高校生、大学生にも教育費がかかっていると思うと、本当に多くを税金で賄っているのだなと感じた。

しかしここで、なぜ国はこんなにも教育に貴重な税金を割いているのだろうか疑問に思った。もう一度教科書の一文に戻ってみる。「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ…」改めてこれを見ると、僕たちが日本の未来を担っていること、そして将来そんな大人になることを期待して、全ての人が平等に教育を受けられるように税金が使われているのだなと考えた。僕が初めてこれを見たとき印象に残ったのも、きっと当時の僕が教科書に込められた思いを初めて感じたからだと思う。

数ある税金が使われている場面の中で中学生にとって最も身近で、最も税の恩恵を受けているものが「教育」という場だと思う。だからこそ僕は今回の題材に教科書を選んだが、改めて税金のありがたさと、その必要性を感じた。質の高い教育をお金の心配なく受けられること、充実した学校生活を送れること、本当にたくさんの方の恩恵を受けている。そして、教育のために使われている税金は全体の一部に過ぎない。僕たちは本当にたくさんの方の場面で税金にお世話になっている。だからこそ大人になっても、様々な場面で税金を払うことをためらわず、責任をもつて国民としての義務を果たしていきたい。また、税金が何に使われているのか、どんな風に社会を支えているのかをよく知って、それらに感謝することを忘れないようにしようと思う。その第一歩として、まずは自分の教科書を大切に使うていこうと心に決めた。

フォトコーナー



全国大会出場を果たした早稲田実業学校高等部のサッカー部とラグビー部が、2月6日に市長を表敬訪問されました



第三小学校2年生の三平咲葵さんの作品「いとこと花火大会に行ったよ」が、2023年度MOA美術館全国児童作品展で銀賞を受賞しました

